

『税の私考をプラス思考へ』

町田市立南中学校 3学年 青山 夏蓬

二〇一九年十月、消費税が八%から十%に引き上げられた。その前日、私は消費税が上がる前にと本や文房具をたくさん買った。その時は消費税が上がるなんて払う金額が増えるから嫌だと思っていた。それに、生活に困っている人々にとってはさらに生活が苦しくなるのではないかと思った。

中学一年生の半ば、私はケガをして一年程リハビリに通った。初めは近くの整形外科での治療だったため、医療費は二〇〇円だった。しかし途中から横浜市のリハビリテーション病院に通うことになった。初めてそこでリハビリをしたとき、請求されたのは七五〇円だった。危うくお金が足りないところだった。

家に帰って町田市の病院と横浜市の病院で支払う医療費に差がある理由を母に聞いた。その理由は市による医療費助成が異なるからだった。例えば一五〇〇円分の治療だとすると、町田市では一三〇〇円分の助成があるが、横浜市では一〇〇〇円分の助成になる。

それを知って、私は一つ疑問が浮かんだ。町田市民だが、やむを得ず横浜市の病院に通院しなければならない人は医療費の負担が増えて困るのではないかと。

それについて母は、医療明細書を市役所に持って行くと、他市で

自分が負担した医療費を町田市がさらに助成してくれるのだと教えてくれた。それも、その助成は私たちが払う税金の一部だというのだ。私はとても驚いた。私が払う消費税は、全て高齢者等の年金に使われていると思っていたからだ。

私はここで、税に関する意識ががらりと変わった。最初は、消費税の引き上げは積極的に賛成しているわけではなかった。学用品を買ったためによく訪れる一〇〇円ショップで、以前は一〇八円で購入できた物が、一一〇円払わなければならない。二円分の値上がりは大きすぎると思っていた。しかし、自分の体験や母の話を聞いて、顔も名前も知らない誰かの税金が私の体を健康に保ってくれていると気づいた。裏を返せば、私の払う消費税が誰かの健康を保つ手伝いをしていくかもしれない。それだけでなく、これからの日本の未来を担う子どもたちの教育やその親の支援に使われているのかもしれない。他にも様々な場面で私の払う消費税は使われているのだろう。

そう考えると、二円分が惜しいとは思えない。これから社会に出て働くようになったら、所得税や住民税を払うようになるだろう。でも、その税金は誰かのために使われ、自分も誰かに支えてもらっていることに変わりはない。私が今のように何不自由なく日常を過ごすことができているのも、税金のおかげなのだと思えば、税金の仕組みは良くできているなあと思う。それとともに感謝の気持ちもわいてくる。これからは、自分なりの新しい価値観で税と向き合っていくと思う。